

【JHUPO 通信 No. 10】 2009. 5. 15

【研究室便り- 3】 医薬基盤研究所 PRC

プロテオームリサーチプロジェクト／プロテオームリサーチセンターの《朝長 毅》先生の研究室を朝長先生ご自身に紹介させていただきます。

《朝長先生からのメール》

今年 2009 年 1 月より千葉大学大学院医学研究院・分子病態解析学から大阪の彩都にある独立行政法人医薬基盤研究所に移ってきました。こちらは、医薬基盤研究所の 1 プロジェクトとしてのプロテオームリサーチプロジェクト研究室ですが、平成 20 年度から 24 年度までの厚生労働省創薬基盤推進研究事業「疾患関連創薬バイオマーカー探索研究」の中心となるプロテオームリサーチセンターとしての役割も兼ね備えています。この研究事業は平成 15 年度から 19 年度まで大阪加島で行われていた創薬プロテオームファクトリー事業 (PF) を引き継いで行われるものですが、平成 20 年度からは本拠地を加島から医薬基盤研に移し、研究体制、研究内容を一新させて新たにスタートを切ることになりました。研究室のメンバーも私をはじめとして、ほとんどの人は 4 月から新しく参加した人たちばかりで、現在、ポスドク 3 人、テクニシャン 5 人、総務部門 1 人、秘書 1 人の 11 人から成り立っています。プロテオーム関連の機器としては、下記に示すように、平成 20 年度補正予算で購入された最新の質量分析計 5 台の他、PF から移設されてきたプロテオーム解析のための数々の機器が揃っています。ただ、この 4 月からスタートしたばかりですので、ようやく新しい機器の基本トレーニングが終わった状況で、本格的な研究はこれからといったところです。研究内容としては、文字通り、疾患関連バイオマーカー探索ですが、対象疾患としては、現在死亡率 1 位と 2 位のがん、心疾患に加えて医薬基盤研がこれから力を入れていく難病、特に神経疾患のバイオマーカー探索を行っていく予定です。方法としては、これまでのプロテオーム解析ではなかなか優れたバイオマーカーが見つかってこなかった点を反省材料として、より微量なタンパク質の探索、すなわち deep proteome を目指して行きたいと考えています。同時に、バイオマーカー候補タンパク質の機能解析を含めた検証および臨床応用に向けたタンパク質の定量にも力を入れていくつもりです。幸いなことに、厚労科研費研

究班の研究分担者には日本のプロテオーム研究を代表する方々が揃っていますので、その研究者の方々との協力のもとオールジャパンの技術を結集して、1 つでも多くの新規疾患関連バイオマーカーを見つけ出すことを目標にしています。

(医薬基盤研究所 朝長 毅)

独立行政法人 医薬基盤研究所 プロテオームリサーチプロジェクト／プロテオームリサーチセンター

研究室メンバー	プロジェクトリーダー ポスドク 3人 技術補助員 5人 総務部門 1人 秘書 1人
プロテオーム関連研究機器	サーモ LTQ Orbitrap XL ETD 日本ウオーターズ Synapt HDMS ブルカー maXis ブルカー ultraflex III ABI QTRAP 5500 ABI QSTAR Elite ABI QSTAR XL ライカ LMD6000 カールツァイス LSM710 GE(アマシャム) Typhoon HPLC (AMR、島津)
住所、連絡先	〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7-6-8 TEL 072-641-9862、FAX 072-641-9861 E-mail: tomonaga@nibio.go.jp
ホームページ	http://www.nibio.go.jp/kisoteki/proteome.html (詳細はこちら) http://www.nibio.go.jp/proteome/index.html

お願い： 会員の皆様の研究室をご紹介下さい。

400～800 字の原稿を平野 (hirano@yokohama-cu.ac.jp)宛お送り下さい。

【JHUPPO 通信】は JHUPPO 会員の皆様に送付しています。

【アドレス変更/配信中止】【ご質問・お問合せ】は、

JHUPPO 事務局 (cljhupo@secretariat.ne.jp) をお願いいたします。